

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット1		
所在地	北海道旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時より、食事は手作りにて提供しており、近くのスーパーから食材を購入し、施設内で調理することで、家庭的な雰囲気をより感じていただくことや、手作りならではの温かさや味を感じていただき、快さの中で生活して頂ける様に配慮しております。

入浴に関しては、リフト浴用の浴室を設け、車いすの方でも気軽に入浴して頂けます。リフト浴室は、一般浴室よりも広く、浴室の壁は木造になっておりますので、ゆったりと入浴して頂くことができます。

レクリエーションに関しては、春から秋までの間外出レクにて、少しでも季節を感じて頂ける様に、お花見や町内行事で行われる夏祭りへの参加、リング狩りや紅葉見学などを行っております。どうしても体調面の不安から、外出できない方もいらっしゃいますので、全員で外に出られるように、永山亭の駐車場において夏祭りも行っております。例年、家族会から協賛をいただくなどのご協力を得ながら、家族の方々に参加して頂き、入居者の皆様には楽しんでいただいております。室内レクにつきましても、新年会やジンギスカンパーティー、出前をとる等、外出できない時期になっても、少しでも良い刺激を受けて頂ける様に配慮しております。

開設から15年目を迎えましたが、開設当時から在籍している職員や在籍10年を超える職員など、勤務年数の長い職員が多数在籍しており、入居者の皆様と、ともに生活を送るものとして、お互いを尊びながら快さと笑顔を共有できるように日々の業務に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 永山亭」は、JR永山駅から車で5分ほどの静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。近くに公園やスーパーなどがあり、生活の利便性に優れている。開設14年が経過する中で、施設長を中心に職員は積極的に地域との関わりを深め、事業所近隣の幼稚園や町内会の協力を得て地域交流が活発に行われている。運営推進会議では町内会、幼稚園、テーマに応じて製薬会社の代表者や他施設職員の参加を得ている。実習生も継続して受け入れている。事業所内ではケア理念を見なおす際に各職員が理念を考えて持ち寄り、全体研修でグループワークを行う過程で職員間で内容が共有でき実践につなげている。研修では全体研修のほか、職員が交代でテーマを取り上げてスタッフ勉強会を行うなど毎月研修がある。施設長は職員が自主的に学びながら良質のケアに向けて取り組めるように環境を整備している。協力医療機関と看護職員の下で看取りも行い、本人、家族の安心感につながっている。食事では調理に利用者も参加できるように工夫し野菜を切ったり盛り付けに参加してもらっている。日々の散歩や買い物、外出行事では動物園、カムイコタン方面などにドライブを楽しんでいる。理念の「快さと笑顔の共有」を職員は日々意識し、利用者の個別の思いに沿って笑顔で丁寧に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、適宜見直しを行い、今のスタッフの思いを反映させられるように配慮している。また、自分たちで作った理念を共有することで、明確に理念を意識できるような環境づくりに努めている。	今回、全体研修でケア理念を見直し、3項目の2番目にある「お互いを学ぶことができる生活の継続」に家族や地域住民との関係を含めている。職員は理念に沿って利用者の自由な生活が継続できるように日々意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の挨拶はもとより、できるだけ町内会の行事に参加することや町内会総会などにも参加し、町内との交流を図っている。また、近隣住民の方には、雪はねを手伝っていただけている。	町内会の花見やお祭りは近くの公園で行われ、車椅子使用の方も参加できジンギスカン料理を楽しんでいる。事業所の夏祭りには幼稚園から TENT を借りたり、近所から野菜の差し入れなどもあり焼き鳥を提供して住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主導の下、認知症サポーター養成講座を町内会館にて開催し、地域の方々に少しでも認知症を正しく理解して頂ける様に働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価後には、評価時にあった話も含めて報告している。また、家族に対しても評価のまとめなどを送付している。会議においては、様々な議題にて会議のメンバーと情報共有を図ることに努めている。	町内会、行政、家族会、幼稚園の代表やテーマに沿って製薬会社の参加も得ている。ケア理念や身体拘束適正化の取り組みを報告し、外部評価、防災などで活発に意見を交換している。今後はテーマを検討しミニ勉強会も考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とのやり取りは、改正があった時や申請等の場面でのやり取りのみとなっているが、地域包括支援センターと協働し、研修会の手伝いなどを行い、関係性の構築を図っている。	介護報酬改定で、担当者に指針内容について確認している。地域包括支援センターの依頼で認知症サポーター養成フォローアップ研修の講師を引き受けたり、認知症の人と家族を支える会のメンバーになり、行政の取り組みに協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束に当てはまるのか、また、身体拘束をしない支援とは何かなどについて、内部研修や身体拘束等適正化のための指針などを通してスタッフ間で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化の指針に基づき3か月ごとに委員会を開催し、議事録を回覧して全職員が共有している。全体研修で事例をもとにグループワークを行い、身体拘束の禁止行為を確認し、接遇で言葉遣いなどを学んでいる。日中は玄関を開錠し、見守りで安全に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて、虐待についての内部研修を行い、全スタッフが知識を共有し、虐待の防止に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持ち、個々で仕事に対しての向上心が持てるように図っている。また、研修などで、他の事業所の方と交流することがあれば、話を聞き参考にして業務内で取り組めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や面談時などに相手の目線に立った説明に努めている。また、できる事とできないことを明確に伝え、誠実に対応することを念頭に、説明などに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の働きかけや面会時などに積極的にコミュニケーションを図り、できるだけ意見や要望がくみ取れるように配慮し、意見や要望があった場合には、改善に取り組むことに努めている。	家族の来訪時には報告の中でケアや介護計画の意向を話し合い、意見などは利用者ごとの「面会者記録」に記載し対応している。今後は職員の気づきも含めて記録を行い、家族の気になる個別の思いを把握して共有できるように考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時などに、業務のことについて意見があった際には、一度行ってみることを優先し、改善点や不備があった場合には都度検討することとしている。	毎月の全体会議で連絡事項や大きな行事について確認し、ユニット会議ではケアなどで意見を交換している。業務見直しの意見を取り上げて全体研修で業務の適正化を行っている。施設長は職員の意見や希望などを個別に聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士で意見を交換できるような関係性を保ち、働きやすい環境でできるだけ個々で向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングにて年4回全体研修を行い、ケアの向上に努めている。また、業務内で職員が不適切ケアを行っていた際は、注意を促したり、話し合いをする機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括支援センター主導の下、管理者の集まりがあり、そこに参加することで他の事業所と甲虫は図れている。スタッフについても、地域にて開催される研修にて行われるグループワークなどを通じ、交友する機会はあるが、多くはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、ご本人や家族の方から困っていることや不安であることを聞き、入居後はコミュニケーションを通して、安心や永山亭を自宅の様に思ってもらえるように関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時から、困っていることや要望を聞き取り、永山亭にてできる事は対応し、入居後はコミュニケーションや家族の方と情報を共有しながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学時より、コミュニケーションにて信頼関係が築けるように努め、また、入居後はゆっくりスタッフや他の入居者の方と過ごして頂き支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事を摂る等、一緒に過ごすことで信頼関係や良好な関係を築ける様に努め、共に支えあえる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方とのコミュニケーションを積極的に図ることで、要望や感じていることにできるだけ気づき、また、本人を中心に置きケアをできるように、ご家族とも共に支えあえるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があるときには、身体状況を考慮しながら外出や友人への連絡などを対応し、関係性が途切れない様に努めている。	友人や宗教関係者がグループで来訪し、自室で過ごしている。日頃の付き合いで近所の町内会長とは顔馴染みになっている。家族とお墓参りや外食をし、職員の同行で好みの食事や趣味の生地を買ったり法事で送迎する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居後は、レクリエーションなど、日常的にコミュニケーションを図って頂ける様に努めている。また、気分に合わせて一人で過ごしたい時は配慮し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族から電話を受けることはあるが、支援を望まれることは現在までではない。必要な時は、相談や支援にて対応できる体制は構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話や要望をしっかり聞き、伝えたいことやしてほしいことを把握できるように努めている。把握が難しい場合は、日常の表情や言動にて把握できるように努めている。	会話の中や、難しい場合は表情から利用者の思いを把握している。センター方式のシートを活用し、職員が交代で6か月ごとに更新し計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に、本人やご家族に時間を作っていただき、これまでのサービスや生活歴を聞いている。また、自宅の再現を自室にして頂ける様に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のリズムをこちらで決めてしまわない様に配慮し、その時の本人のリズムに合わせて支援できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取り、日常の様子やご家族、主治医から情報収集を行いながら、より良く生活して頂ける様に介護計画の作成に努めている。	職員は計画に沿って日々の記録を行い、サービスの実施内容や変化も記載し、1か月ごとに支援経過記録にまとめている。計画作成担当は、それらを参考にモニタリングを行い原案を作成して会議で確認し介護計画を6か月ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元に記録を記入しており、支援や日々の生活の中から気づいた点を記録や共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の話などから新しいニーズがあった場合には、対応できる範囲で実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会にて行われる夏祭り等行事に参加させていただき、町内会の方々と交流を図ることで少しでも入居者の方々とスタッフの顔を覚えていただき、協働して頂ける様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況に考慮しながら、なるべくかかりつけの病院に通院して頂いている。病院をなるべく変えずに済むように医師との関係性の構築に努めている。	希望者のみ協力病院の訪問診療を受けている。かかりつけの病院や専門的な他科受診は基本的には事業所が対応し、安定している時は通信で結果を報告している。受診記録は個人ファイルごとに管理している。	



グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回永山亭の看護師に連絡ノートや口頭で報告や相談を行っている。受診時や往診時には医師や看護師に報告。相談を行い、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご家族の方との連絡や面会、病院との連絡にて状況の把握に努め、ご家族とも相談し早期退院の為にできるような努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し、主治医に報告や相談を行っている。また、苦痛軽減のための対応を主治医、看護師などと相談している。できるだけご本人やご家族に安心して頂ける様に報告や連絡に努めている。	利用開始時に重度化や看取りの考えを説明する中で看取りが可能な内容を伝えている。主治医の判断で看取りに入る時は書面を作成して同意を交わし、今年度は2名の看取りを行っている。全体研修で看取りケアを学び、振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急対応についてのマニュアルを整備するとともに、主治医との関係性を構築し、救急時には指示を仰げるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、日中・夜間の想定に行っている。また、より具体的な内容の訓練を行い、実際の火災に備えている。	11月に消防署の立ち会いで夜間を想定した避難訓練を行い、5月に日中を想定した自主訓練を実施している。訓練に町内会長の参加を得ている。備蓄品は冬期も含めて整備をしている。地震を想定した事業所内の対応は今後に予定している。	地震を想定し、事業所内の危険箇所を再度確認し、各ケア場面で利用者ごとの対応を職員間で話し合うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを意識し、家族の了承の下、馴染みの呼び方で呼ぶようにしている。また、不適切なケアが見られた時には、検討し再発防止に努めている。	全体研修や勉強会で、口調や言いまわし、認知症について学んでいる。申し送りは、プライバシーに配慮して居室プレートの花の名前でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるように日常の中で気を配り声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースや生活の流れを把握し、できる限り個々のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容にて個々の希望に対応している。男性には、毎日髭剃りを促し、女性には洗面後に化粧水を促すなどの配慮を行っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒に食事を摂り、コミュニケーションの場にすることや、手伝って頂ける方には、手伝っていただいている。また、苦手な食材や料理は代替の物にて対応している。	献立は施設長と調理専門職員が作成している。利用者も盛り付けや野菜を切るなど、できる部分を手伝っている。出前の寿司や蕎麦を味わったり、寄せ鍋やジンギスカンパーティーを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を用い確認し、摂取量が継続して少ない方は摂取量について主治医に報告、相談し経口栄養剤などを処方して頂くなどの対応を行っている。また、介助する際には、本人の気分や能力を見極め対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後に口腔ケアを促し、介助が必要な方には、一部介助などを行い、保清に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、その方にあつた排泄のリズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。また、一度リハビリパンツやオムツを使用しても、検討を行いながら、その方に合わせた対応ができるように努めている。	全員の排泄を記録して、立位が可能であればトイレでの排泄を支援している。ミーティングで本人のできることを話し合い、自立に向けて取り組んでいる。入居時にリハビリパンツとパッドを使用していた方が、布パンツとパッドに改善した事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録や毎日の申し送りにて個々の排便状況を把握し、体操や乳製品などを促し、便秘の予防に努めている。また、主治医に相談し、緩下剤を調整して服薬して頂いている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	人員の体制上、週2日の入浴にはなってしまうが、できるだけ時間の希望などに添えるように配慮している。	月火・木金を入浴日として、各人が週2回入浴できるように支援している。身体状況に応じて機械浴で対応し、全員が湯船に入っている。入浴順や同性介助の希望に応じて、香りを楽しめる入浴剤など工夫しながら個々にそつた入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯の時間などは設けず、リズムに合わせられるように配慮している。また、夜勤者はゆっくりと休めるように巡回を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内訳が分かるように、処方簿を常に確認できるようにしている。また、服薬の変更があつた時には、申し送りノート等で周知を図っている。薬についての疑問などがあつた時には、主治医に聞いている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は、誰かに与えられるものではないということを理解したうえで、なるべく手伝って頂けるような働きかけを行っている。また、個別でのレクリエーションを多く行い、楽しんで頂ける様に配慮している。			

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事は月に1度予定している。また、天気の良い日などは、できるだけ散歩などに出かけている。本人から要望があった際には、日にちなどの予定を組み、できるだけ対応できるように配慮している。	季節に応じて近隣の公園を散歩したり、個別の買い物で外出している。職員と一緒に花の苗を買いに出かける方もいる。花見で神楽岡公園に行ったり、弁当持参で中央公園にピクニックに出かけている。リンゴ狩りや動物園、カムイコタン方面へのドライブなど、四季を通じて外出の機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	頻度は多くないが、一緒に外出し、買い物などの要望があった際などは、できる限り対応している。支払いは、その方に応じて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行の妨げにならない様に、イスやテーブルを配置し、明るさや温度、湿度、清潔感に注意を払うなど心地よく生活して頂ける様に配慮している。また、行事で撮った写真を掲示するなどし、思い出の共有も図っている。	対面式の台所から居間の様子が窺える開放感のある造りで、濡れタオルで湿度調節をしている手摺りには小さな縫いぐるみがさりげなく飾られている。トイレや浴室は居間から見えにくい場所にあり、プライバシーに配慮されている。雪だるまや雛飾りなど、季節感のある装飾から温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の配置やソファの配置を工夫し、自分の定位置や好きな場所を選んで過ごして頂ける様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、人によっては仏壇などを持ち込んでいただいている。また、写真や小物などを配置し、できるだけ居心地の良い空間が作れるように配慮し、工夫している。	本人が落ち着いて過ごせるように、馴染みの物を持って来てもらうように話をしている。使い慣れた鏡台や籐の椅子、タンスなどを持ち込んだり、民芸品の小物類を飾っている居室もある。テーブルと椅子を置いて来訪者と会話を楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には手すりを配置し、浴室には滑り止めマットなどを使用し注意を払っている。また、個々の身体状況に応じ、行動を細分化するなどして支援不足、過多にならない様に努めている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット2		
所在地	北海道旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時より、食事は手作りにて提供しており、近くのスーパーから食材を購入し、施設内で調理することで、家庭的な雰囲気を感じていただくことや、手作りならではの温かさや味を感じていただき、快さの中で生活して頂ける様に配慮しております。

入浴に関しては、リフト浴用の浴室を設け、車いすの方でも気軽に入浴して頂けます。リフト浴室は、一般浴室よりも広く、浴室の壁は木造になっておりますので、ゆったりと入浴して頂くことができます。

レクリエーションに関しては、春から秋までの間外出レクにて、少しでも季節を感じて頂ける様に、お花見や町内行事で行われる夏祭りへの参加、リング狩りや紅葉見学などを行っております。どうしても体調面の不安から、外出できない方もいらっしゃいますので、全員で外に出られるように、永山亭の駐車場において夏祭りも行っております。例年、家族会から協賛をいただくなどのご協力を得ながら、家族の方々に参加して頂き、入居者の皆様には楽しんでいただいております。室内レクにつきましても、新年会やジンギスカンパーティー、出前をとる等、外出できない時期になっても、少しでも良い刺激を受けて頂ける様に配慮しております。

開設から15年目を迎えましたが、開設当時から在籍している職員や在籍10年を超える職員など、勤務年数の長い職員が多数在籍しており、入居者の皆様と、ともに生活を送るものとして、お互いを尊びながら快さと笑顔を共有できるように日々の業務に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は適宜見直し、スタッフと一緒に作っている。理念に対して意識が持てることで、すべてのスタッフが同じ方向へ向かえるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会やお祭りなどに参加し、できるだけ地域の方々との交流の機会を確保することで、永山亭を知っていただける様に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主導の下ではあるが、町内会館において、認知症サポーター養成講座を開催し、地域に認知症の正確な理解の啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々行っていることや行事、時事の話題などを報告し、質疑や意見を聞き、改善や周知を行い、業務に活かしている。また、できるだけ参加して頂ける様に、案内を送付する際に、議題も記入している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、届出や介護保険改正時に問い合わせ等を行うにとどまっているが、地域包括支援センターとは、地域に向けての研修会や定例会などに参加することで、関係性の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修やマニュアルの周知などを通して、身体的拘束がもたらす身体・精神的苦痛について正確に理解できるように努めている。また、不適切ケアを含めた接遇などについても研修を行い、入居者の行動制限につながるような声掛けなどに対しても周知徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、内外研修やマニュアルの作成を周知するなど、対応している。また、スタッフの精神的なケアを行うために、個別での面談や休憩時間をに気軽にコミュニケーションをとれる様に配慮し、虐待に至らない様に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などを通じて、相談できる関係性を構築し、必要になった場合には、連携が図れるように努めている。また、成年後見制度などは、開始後の後見人との関係性も良好に保てるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時や面談時から関係性を構築することが入居後の良好な関係性の構築に必要不可欠と考え、配慮している。また、できる事とできないことを正確に伝え、誠実に対応することを心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にできるだけ参加して頂ける様に、運営推進会議案内には、その時の議題を記入している。また、改めて聞き取りを行うだけでなく、面会時などに、世間話などを通じて意見や希望を収集できるように配慮している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時などの聞き取りの他に、個別での面談や休憩時間を利用したコミュニケーションなどから聞き取りを行っている。聞き取った内容について必要な場合は、ミーティング等で共有し改善を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの能力に応じた負担や体調などを考慮しながらバランスよく仕事を振り分けることで、漫然とした業務にならない様に配慮している。また、労働時間にかんしては、スタッフの人数に対する負担について適時見直し、検討を行うことで、過度な負担を強いることのない様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフ研修を入社した時点で行っている。また、年4回の内部研修をその時に必要な事柄について行っている。その他に、ミーティングでも勉強会として職員が調べて学んだことを発表する場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者同士の集まりは地域包括支援センター主導の下2か月に1回のペースにて開催されており、交流の機会となっている。スタッフに関しては、地域で開催されている研修会に参加した際に、グループワークなどを通して交流を図っているが、頻度はあまりなく、充実した交流とはなっていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に、今困っていることやこれからどのような生活を送りたいのか等を十分に聞き取り、精神面などに配慮しながら入居後は積極的にコミュニケーションを図り、心地よく生活して頂ける様に豊かな信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、しっかりとした話し合いの中でどのような対応ができるのかを話している。また、できる事とできないことを明確に伝えることで信頼関係を構築して頂ける様に努め、気兼ねなく話して頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際の聞き取りや入居の際の聞き取りなどから見極め対応している。できる支援の内容に齟齬がない様に必要な支援を見極め、課題や困難さに対して真摯に向き合えるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を過ごす上でスタッフもその一員と言う意識を持ち、共有を図り、積極的なコミュニケーションを行い、関係性の構築に努めている。また、些細な事への心配りや声掛けに配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際にも、近況報告や随時連絡を取っている。また、月一回通信を送付し、遠方の家族の方にもどのように暮らしているのかを把握して頂ける様に配慮している。誇張や過少な表現をせずに伝えられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪して頂ける様に時間の制限などは設けていない。また、身体状況に応じて病院や美容院などの関係性が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方だけではコミュニケーションを図ることが困難な場合には、適宜仲介などを行っている。ユニットの区別をせずに、ユニット間の交流も図れるよう配慮している。レクリエーションを行う際は、スタッフが仲介し、参加されている方全員が楽しめるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化しそうな場合などに、今後について話す機会を家族と設け、その場において退居になった時には、これからのことについて相談して頂ける旨を伝え、退去後の行先などに困らない様に配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動を把握し、本人の意向を聞きながら、見守りや支援のバランスなどを考え、張りのある生活をしていただけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人などから聞き取りし、快適な暮らしの継続ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態に合わせた支援や本人の希望にできるだけ寄り添えるように身体状況を把握しながら対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過はもとより、看護スタッフや主治医、歯科医師などからも情報収集を適宜行い、課題達成のための適切な支援が図れるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記載方法をスタッフ同士で決め、支援経過を作成することで、入居者のケアに対する小さな気づきや今後の改善につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿った支援を行うために、スタッフ間で話し合い、今行っている支援の他にも適した対応があった場合には、積極的に取り入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方々との交流を密にし、行事などに参加させていただき、日頃とは違う場でのコミュニケーションを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望する医療機関に対し、納得の得られるように対応を行っている。また、協力病院との関係を大切に、都度適切な医療が受けられるような体制を構築している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を雇用し、勤務時間中の情報共有や看護日誌などを通して、入居者の変化について気付ける体制の構築に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、できるだけその方を知って頂ける様に、説明している。また、入院中についても、積極的に連絡を行い、情報交換に努めている。退院時は、病院からの情報提供の他に、医師や看護師から聞き取りを行い、注意点などについて把握できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、入居時に説明することはもとより、状況に変化があった場合には都度説明を行っている。また、主治医とも相談や連携を図り、できるだけ安心して頂ける様に配慮している。できる事とできないことを正確に説明し、誠実に対応できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルや急変時の対応について周知しており、また、主治医との連携にて、急変時には連絡を行い、指示を仰げるような体制を確保している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っており、内1回は消防の立会いを受けている。消防の立会いを受けた際に指摘された事柄を次回の訓練に活かすことや、運営推進会議にて報告した際に出された案などを取り入れるなどしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフには、お互いの立場を正確に理解することや、接遇などを通して、声掛けや行動について配慮できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行うときの目線や行動等について配慮する他、決定を促すような声掛けに注意するように周知し、行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、入居者にとってどんな意味があるのかという目線に立って、今自分たちが行っていることは本当に入居者にとって良いことなのかを考えながら業務に取り組めるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や色などを本人や家族から聞き取り、できるだけ添えるように支援を行っている。また、自ら選択できるような支援にも心掛けている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力に応じた提供方法や支援の細分化を図り、ピンポイントの支援を行うことで食事を楽しんで頂ける様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態は採血結果などを主治医と相談し、バランスが取れるように配慮している。水分は食事摂取表を用い都度確認を行いながら、こまめに促すなどし、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の口腔内の状況に応じて毎食後にケアしている。必要に応じて歯ブラシやスポンジなどを用いて清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、リズムに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄して頂ける様に配慮している。状況に応じてパットやリハビリパンツを使用、使用中止についての検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	都度主治医に報告を行い、緩下剤の使用頻度、量について相談している。常用に応じて、牛乳等の提供についても細やかに対応し便秘の予防を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の関係上、入浴日は決まっているが、時間は可能な限り対応している。入浴剤の使用やこまめな温度調節、声掛けなどのコミュニケーションを図り、入浴を楽しんで頂ける様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに応じて休息して頂いている。消灯も本人のペースに応じている。また、入眠の状況も良好に保つことを主目的として、夜間帯は巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方簿を目に付くところに配置し、すぐに手に取れるようにしている。薬についての疑問は主治医に聞くことで、薬の目的や副作用について把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、本、ゲーム等その方の好みに合った楽しみごとを検討し、支援している。役割は設けず、本人のペースにて申し出があった場合にのみ手伝っていただくなどしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して、外出でして頂けるような機会を設け、商業施設見学や花見、公園散策等施設外の様子を感じ、気分転換して頂けるように対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ送迎にて、商業施設へ行き、付き添いの下自ら商品を選び会計も行って頂けるような機会を設け、本人の意向に沿った支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に電話をかけ、手紙を書くことができる環境を作り、必要に応じて支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場所においても、入居者が心地よく暮らせるようにスタッフ間で情報交換し、速やかに対応ができる様体制を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室又はDR内において定位置を把握し、落ち着いた環境が提供できるようにスタッフ一人ひとりの行動に気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら動線を検討し、物や家具の位置を決め、不便さのないよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しやモップ掛け等を共に行っていただいている。また、自ら進んで行っていただけるように声掛けや雰囲気作りに気を配っている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 永山亭

作成日：平成 31年 3月 6日

市町村受理日：平成 31年 3月 6日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災については、具体的な場面を想定し、避難訓練等実施できているが、災害(特に地震)についての取り組みとして、不足している部分があり、具体的な取り組みが行えていない。	地震想定での訓練はなかなか想定することが難しく、訓練を行うことは困難ではないかと思われる。そのため、全スタッフと共に、事業所内に存在している危険箇所(例えば倒れやすい物などの有無や場所等)について話し合い、災害についての認識や意識付けができる。	スタッフ会議や研修の機会を用い、全スタッフで事業所内に存在する危険箇所や危険な理由等についての話し合いを行い、記録として残す。	1年
2	10	ご家族が来訪された際などに面会記録を作成し、面会時の会話の内容などを記入しているが、スタッフの気づきについては記入されておらず、ご家族の機微についての把握ができていない。	面会者記録への記入は、会話にとどめず、面会時のご家族や入居者の方への気づきについても記入することで細やかな事柄への気づきにつながり、より具体的に望みに対して寄り添うことができる。	現在使用している面会記録の書式を工夫し、記録用紙を増やすことなく、気づきについての記入を行う。スタッフによって気づきにばらつきが出るとも考えられるが、話し合いなどを行い、感覚が共有できる機会とする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。